

<全体分析>

試験時間 120 分

<p>解答形式 論述式・記述式 分量・難易(前年比較) 分量(減少・やや減少・<u>変化なし</u>・やや増加・増加) 難易(易化・やや易化・<u>変化なし</u>・<u>やや難化</u>・難化) 大問数は昨年度と変わらずで、3題であった。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとも総字数が400字ずつで、昨年度と変わらなかった。 出題の特徴 例年と同様、Ⅰが倫理分野、Ⅱが政治分野、Ⅲが経済分野からの出題である。</p>
--

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
Ⅰ	論述式 (200字) (200字)	ベルクソンの「開いた社会」と民主主義	<p>問1は、本文に「閉じた社会」について説明されているので、それと対比して「開いた社会」を、規定字数内の的確に説明できるかどうかのポイント。「開いた社会」とは全人類に対して開かれた社会であり、解答例にあるように、人間の自然的・本能的限界を超えて、全人類に関心を持ち、全人類を同胞として受け入れる人類愛に支えられた創造的で動的な社会である。</p> <p>問2は、六つの指定語句をすべて用いて的確に説明できるかどうかのポイント。まず、民主主義が、すべての人間に<u>自由で平等な存在</u>であることを不可侵の<u>普遍的な人権</u>として保障するという原理に立つ「唯一の」社会体制であることを指摘する必要がある。そして、民主主義が、自由と平等の矛盾対立を人類愛によって克服し、「閉じた社会」を超越して全人類に対する<u>普遍的な同胞愛</u>に支えられた「開いた社会」を志向するものであることを指摘しなければならない。そのうえで、このような志向の原動力となるのが、人々が自己のうちに感じとる、生命の<u>創造的進化</u>を促す衝動の力としての<u>エラン・ヴィタール</u>(生命の躍動)であることを指摘すればよい。</p>	やや難
Ⅱ	論述式 (200字) (200字)	核兵器の廃絶に向けた動向と日本のジレンマ	<p>問1では、ICANのノーベル平和賞受賞という事実や、核兵器禁止条約の採択の背景と同条約の重要性について問われている。解答のポイントは、核拡散防止条約や包括的核実験禁止条約など対比して、核兵器禁止条約のもつ意義を的確に論述できるかどうかにある。問2では、核兵器の廃絶という課題について日本が抱えているジレンマについて問われている。解答のポイントは、いわゆる「唯一の被爆国」という立場にたって核兵器廃絶を理念として掲げている日本が、安全保障政策上は、アメリカの核抑止力に依存しているという現実との間にあるジレンマを的確に指摘することである。</p>	標準

III	論述式 (200字) (200字)	新型コロナウイルスの感染拡大の外部効果	問1では、新型コロナウイルス感染拡大という現象が「市場の失敗」を引き起こす理由が問われている。市場の失敗の類型は限られているので、この現象が外部効果に当たるといことは見当が付けやすい。解答のポイントは市場における自由な経済活動が、市場を経ずに他の経済主体に、新型コロナウイルスに感染させるという負の効果をもたらすことの指摘である。それに加えて、外部不経済がなぜ市場の失敗に当たるのか、ということのを的確に説明できるかどうかは解答のポイントとなる。すなわち、政府が適切に介入した場合と比べて、自由な経済活動をもたらす社会全体の便益（経済厚生、総余剰）が低下するということの指摘である。 問2では、社会全体の経済厚生の高める政府の政策が問われている。経済活動を適切な水準に抑制する政策を指摘できることが一つのポイントとなる。もう一つは、外部経済をもたらすような行動を促す政策を指摘することがポイントとなる。	標準
-----	-------------------------	---------------------	--	----

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

2022年度入試より「倫理、政経」の学部独自試験は実施されない。